

調査研究に関する研究計画書

提出年月日		令和4年6月17日	部 名	微生物部	
調査研究課題		県内における腸管病原性大腸菌の実態調査			
調査研究体制	主任研究者	岡部祐未		研究区分 (小分類)	<input checked="" type="checkbox"/> 県単研究 <input type="checkbox"/> 公募研究 <input type="checkbox"/> 共同研究 <input type="checkbox"/> 受託研究 <input type="checkbox"/> 基礎研究
	その他の研究者	山口佳織、三浦美穂、西田倫子 吉野修司			
	調査研究期間	令和5年度 ～ 令和7年度 (3か年間)			
	調査研究費	予算項目	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	国 費	千円	千円	千円	
	県 費	300千円	400千円	400千円	
	そ の 他	千円	千円	千円	
	合 計	300千円	400千円	400千円	
調査研究の目的		<p>下痢病原性大腸菌のうち、腸管出血性大腸菌 (EHEC) 感染症は菌の分離に特化した培地の使用やイムノクロマト法による Stx の検出により、医療機関でも検査は可能である。一方、腸管病原性大腸菌 (EPEC) 感染症は PCR 法等による遺伝子検査で病原因子 (<i>eae</i>: インチミン) を検出しないかぎり、非病原性大腸菌との区別は困難で、遺伝子検査を実施していない医療機関等では確定診断に至っていない可能性がある。</p> <p>当所では平成 26 年から協力医療機関と連携し、PCR 法の伝達研修により EPEC の病原因子を検出後、菌株の収集を行ってきた。これまで収集された菌株について、市販の抗血清では判定できない O 抗原の遺伝子型や <i>eae</i> のサブタイプ解析を行い、県内における EPEC の実態調査を行うことを目的とする。</p>			
調査研究内容	研究の実施計画	①分離された菌株における疫学的背景の調査 ②分離された菌株の血清型分類 ③EPECにおける <i>eae</i> の解析			
	技術手法	①統計学的手法を用いた疫学解析 ②抗血清を用いた型別とPCR法を用いたOgタイピング ③シーケンスによる <i>eae</i> のサブタイプ解析			
	年次計画	令和5年度：菌株の整理及び疫学情報の整理 令和6年度：分離株のO抗原による型別分類 令和7年度：分離株の病原因子解析及び疫学・血清型別との関連調査			
調査研究の効果等 (行政効果・県民ニーズへの波及効果等)	<p>県内における EPEC 感染症の実態を明らかにすることで、県民に対し、下痢症の起因菌として注意喚起を図ることが出来る。</p> <p>病原因子検出の意義を広報することで、医療機関等における PCR の普及を図ることが出来る。</p>				
備 考					